

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
訪問調査日	平成21年7月17日
評価確定日	平成21年8月12日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	鹿児島市西陵6丁目21番21号 (電 話) 099-283-0991
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年7月17日

【情報提供票より】(平成21年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 65 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西陵歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大型団地の中心部に建てられたホームであり、周辺にはスーパーや公園、銀行、診療所、郵便局などがあり、生活の利便性が高い。理念にもあるように、地域との絆を大切にしており、行事への参加やご近所との助け合いを通して交流を深めている。感染症や身体拘束のテーマでミーティング後に勉強会を行ったり、行事委員によるドライブの企画が提案されるなど、日々の研鑽や工夫により、利用者が安心して楽しく暮らし続けることができるように、全員一丸となって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	【職員を育てる取り組み】新人研修マニュアルを作成し、取り組んでいる。また、他職員についても年間研修計画を立てて実施している。【同業者との交流を通じた向上】管理者間で他事業所との情報交換を行い、見学の受け入れ等に取り組んでいる。【重度化や終末期に向けた方針の共有】重度化や終末期に向けた体制整備は、現在進行中である。ホームとしての方針は、入居時に利用者およびご家族へ説明がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員全員で自らのケアを振り返りながら自己評価を実施し、ミーティングやユニット毎の検討を経て、管理者および計画作成担当者が最終的に取りまとめている。外部評価で示された課題については、ミーティングで話し合い、改善に向けた取り組みがなされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議では、ホームの状況報告や自己評価および外部評価の結果報告に加えて、運営についての意見交換がなされている。できるだけ多くのご家族にホームの現状を知ってもらい、家族間のつながりを深めたいという思いから、毎回すべてのご家族に開催案内を送り出席を呼びかけている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	法人独自の家族アンケートを実施しており、利用者やご家族の満足度確認と意見や要望を表出できるような取組みを行っている。回収率は良好で、アンケート結果をもとに、職員ミーティングにおいて、より質の高いケアを目指した話し合いがなされている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホームの前にあるバス停付近の清掃を続け、地元の皆さんと挨拶を交わしている。地域の行事にも積極的に参加しており、苗のやり取りや野菜の差し入れ、菜園づくりについて教えていただくなど、互いに助け合いながら良好な関係が築かれている。

2. 評価結果詳細

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のご家族の絆を、地域の中で大切に支えることを含めた理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや理念の唱和を行い、職員への意識づけを図っている。また管理者は、利用者の「自己決定」と「自立支援」について、折に触れて職員に話しており、日々のケアについて振り返りを行うように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの前にあるバス停付近の清掃を続け、地域の皆さんと挨拶を交わしている。地域の行事にも積極的に参加しており、苗のやり取りや野菜の差し入れ、菜園づくりについて教えていただくなど、互いに助け合いながら良好な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自らのケアを振り返りながら自己評価を実施し、ミーティングやユニット毎の検討を経て、管理者および計画作成担当者が最終的に取りまとめている。外部評価で示された課題については、ミーティングで話し合い、改善に向けた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況報告や自己評価および外部評価の結果報告に加えて、運営についての意見交換がなされている。できるだけ多くのご家族にホームの現状を知ってもらい、家族間のつながりを深めたいという思いから、毎回すべてのご家族に開催案内を送り出席を呼びかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の前後に地域包括支援センター職員と利用者との接触機会があり、ホームの現状について実際に見てもらっている。また、必要に応じて市担当者のもとを訪れ、手続きや相談を行い助言を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回定期的に「はるかぜメール」を発行し、利用者の暮らしぶりや新しい利用者の紹介、職員の紹介等を行っている。健康状態については、ご家族の面会時や電話で随時報告している。金銭管理状況については、月1回、収支状況報告に領収証を添付したものを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人独自の家族アンケートを実施しており、利用者やご家族の満足度確認と意見や要望を表出できるような取組みを行っている。回収率は良好で、アンケート結果をもとに、職員ミーティングにおいて、より質の高いケアを目指した話し合いがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員交流を行うことで、利用者にとって顔馴染みの職員を増やし、いつでも協力体制が取れるような仕組みを作り上げている。新人職員の教育については、それぞれの経験や力量に合ったペースで業務を遂行できるように指導しており、利用者へのダメージを防ぐことに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育マニュアルに沿った教育計画があり、新人を育成する過程で現任職員もスキルアップできる仕組みが作られている。さらに、ホーム内の勉強会をはじめ、法人主催の研修会やグループホーム協議会の研修会に多くの職員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人関連のホーム同士での勉強会やレクリエーションの実施、相互訪問等が頻繁に行われている。他の同業者との交流については、管理者間で情報交換が行われており、職員見学等も受け入れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用希望者のところへ出向き、ホームについての説明を行っている。数回にわたり訪問することで、馴染みの関係づくりに努めている。また、見学してもらうことで、不安を取り払い納得した上で入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として子育てなどについて教えていただいたり、本人の得意分野のことを質問しながら一緒に行うことで、利用者から学ぶ場面を設け、互いに支え合う関係を築くように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの好みや特色、生活パターンなどを把握した上で、その都度意向を確認しながら接している。また、ご家族からの情報をもとに、本人の表情や行動から、その時々思いを汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向に加え、利用者の日々の状態や行動の特色、サイン等を記録しており、計画作成時の参考となっている。また、ミーティング時には職員から積極的な提案がなされており、計画作成に反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎にモニタリングを実施しており、計画の見直しを行っている。また、状態変化時にはその都度見直しを行い、現状に即した計画内容となるように努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援やフットケアの受け入れを行っている。利用者からの希望にできるだけ沿えるように、要望が出た場合は随時検討を行い柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携について説明を行い、利用者およびご家族が納得された上で希望のかかりつけ医となっている。かかりつけ医との情報交換、およびご家族への受診結果報告は適切に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者およびご家族に対し、ホームとして“できること”、“できないこと”を説明している。重度化や終末期に際しては、かかりつけ医やご家族との話し合いのもとで方針を決定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけないよう、特に他の利用者の前での言葉かけや介助には注意を払っている。管理者は、日常のケアの中で不適切な言動に気づいた場合は、その時点で具体的に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが規則的でなくとも、利用者の生活パターンを尊重した方が良いという考えのもと、体調や気持ちに配慮した上で、できるだけ本人のペースに合わせた対応がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みを取り入れて作成されている。それぞれの方の力量や好みに合わせて、調理や準備、後片付けを職員とともに実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉であるため、いつでも利用者の希望に応じて準備ができる。入浴拒否の方への対応としては、その日の状態に合わせて、声かけするタイミングや誘導の仕方に工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランの中に生活レクリエーションを取り入れ、利用者に合わせた役割(洗濯、皿洗い、調理、掃除など)を持っていただき、職員とともに実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に天候を見ながら、近くの公園や近所を散歩したり、隣のスーパーへ買い物に出かけたりしている。また、行事委員の企画により、ドライブに出かける機会もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。外出傾向にある方については行動パターンなどを把握しており、職員間の連携により事故防止に努めている。地域の協力についても働きかけを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同一敷地内の老人保健施設と、道路向かいの関連グループホーム2ヶ所との合同避難訓練を実施している。また、町内会の防災訓練にも利用者とともに参加しており、災害時の対処方法について確認している。非常持ち出し袋も準備され、定期的に設備点検もなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な食事が確保できるように、毎食後、食事摂取量を記録し管理されている。褥瘡対策としてカロリー食を準備したり、飲水拒否の場合は代わりの飲み物を提供している。栄養バランスについては、法人の管理栄養士に献立の評価を依頼しており、具体的なポイントを示して助言を受けている。		水分量に関して特に注意を要する利用者については、摂取状況を記録するなどして、関係者間での情報共有をさらに確実なものとしていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用空間では懐かしい音楽が流れ、食事時にはご飯の炊ける匂いや食器洗いの音も聞こえるなど、自然な感じで生活感を味わえる。職員やご家族の差し入れによる花をはじめ、壁には利用者が描かれた絵や折り紙作品が飾っており、全体が明るく楽しい雰囲気に包まれている。一人用から数人用の椅子やソファが置かれ、思い思いに過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや椅子、本人のお気に入りの小物が持ち込まれており、身体状態に応じた家具等の適切な配置についてはアドバイスしている。利用者の好みに応じて、特徴のある居室づくりがなされている。		